

令和2年度 看護学科学修成果に関する
卒業時アンケート調査結果報告書（抜粋）

令和4年1月

浜松医科大学 IR 室（教学部門）

看護学科学修成果に関する卒業時アンケート調査結果報告

1. 調査の目的

令和2年（2020年度）看護学科4年次生を対象に、ディプロマ・ポリシー（DP、卒業認定・学位授与の方針）に定める学修成果が獲得できているか、自己評価アンケートにより検証を行う。そして、その結果から、教育プログラムにおける問題点や改善点の示唆を得る。

2. 調査方法等の概要

- ・ 調査対象 令和2年度（2020年度）看護学科4年次生（編入学者を除く。）61名
- ・ 調査方法 Web アンケート／無記名調査
E-mail（回答用 URL を記載）に記した Web アンケートフォームから回答を得る
- ・ 調査期間 令和3年（2021年）2月17日～3月11日
- ・ 有効回答数 47件（有効回答率 77%）

3. その他

調査対象者から、編入学者を除くこととした。看護学科編入学者は、既に看護師免許を取得していること、学生によっては就労経験があること等から、本学での学修成果とそれ以前のものとの混在している。本 DP からは、それらを分けた評価が困難であり、一般学生と同様に扱うことは妥当でないと判断した。

1. ディプロマ・ポリシーにおける5段階評価

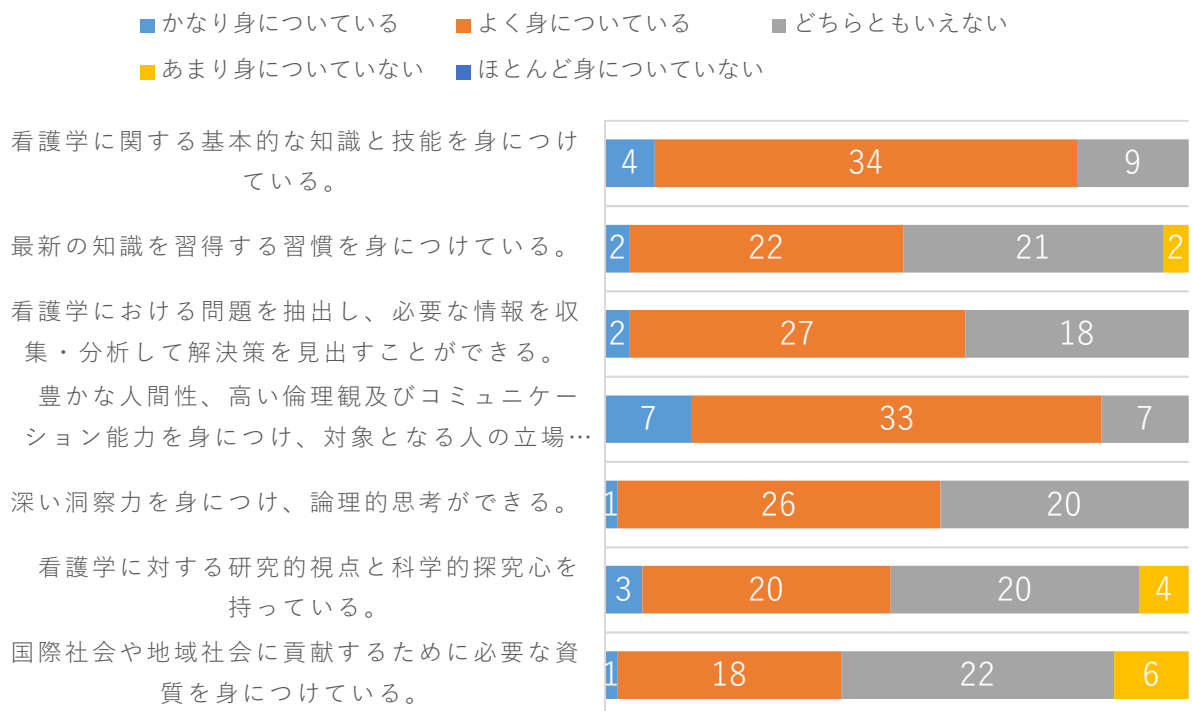
ディプロマ・ポリシーに定める下記の7項目に関して、5段階尺度で質問を行った。

- 1) 看護学に関する基本的な知識と技能を身につけている。
- 2) 最新の知識を習得する習慣を身につけている。
- 3) 看護学における問題を抽出し、必要な情報を収集・分析して解決策を見出すことができる。
- 4) 豊かな人間性、高い倫理観及びコミュニケーション能力を身につけ、対象となる人の立場や視点に立って看護を実践できる。
- 5) 深い洞察力を身につけ、論理的思考ができる。
- 6) 看護学に対する研究的視点と科学的探究心を持っている。
- 7) 国際社会や地域社会に貢献するために必要な資質を身につけている。

“かなり身につけている”の回答が最も多かったのは、4) 豊かな人間性、高い倫理観…の項目で、“よく身につけている”と合わせて、85.1%となっている。

一方、7) 国際社会や地域社会に貢献するために…の項目では、“かなり身につけている”が1件であるのと、“どちらともいえない”、“あまり身につけていない”の回答が約6割を占めている。

図1 DP7項目における5段階評価



2. 浜松医科大学看護学科の教育満足度

看護学科での4年間の教育について、満足度を5段階尺度で尋ねた。回答件数は45で、満足度の平均は3.7であった。また、回答内訳は図2のようで、4点と評価するものが最も多く、26人(57.8%)であった。

評価の平均 3.70 (回答件数 45)

図2 教育満足度の回答内訳

